

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173200569		
法人名	有限会社 和		
事業所名	グループホーム和		
所在地	士別市東1条2丁目440番地		
自己評価作成日	令和 元 年 8 月 31 日	評価結果市町村受理日	令和 元 年 12 月 3 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0173200569-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和 元 年 11 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・その人の人生を尊重し支援致します。 ・その人らしく生活出来る様支援致します。 ・健康面で安心出来る様支援致します。 ・ご家族、地域との関わりを大事に致します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(調査機関記入)】

「和む場所で、その人の力を大切に、あたりまえの生活をともに生きる」を理念として掲げています。利用者は家事に動かしんだり、テレビの歌や時代劇の番組観賞、雑誌や花札、カラオケ等を楽しんでいます。運営者は自治会の役員を担い、地域との連携、協力関係の構築に努めています。社社のどんと焼き見物、神社祭の出店や園児による子供神輿見物など、地域行事には利用者とは利用者とは出かけています。職員は、鏡開きには獅子舞の扮装で、節分には鬼の面を被り、端午の節句は鯉のぼりの仮装、花見会は花咲じいさんの寸劇コント、七夕、夏祭りにはフラダンス、ファイヤーダンス、士別音頭を踊るなど利用者の楽しみに繋がるよう奮闘しています。「映画鑑賞」や「和喫茶」なども企画し、利用者が笑顔になれる多彩な場面作りに努めています。良好な人間関係の中で、新人職員も臆することもなく業務を行える環境を整えています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印				
				項目	取組の成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目につく所に掲げてあり、各自が自らを振り返りながら、理念に基づいているかを確認しながら実践に繋げている。	新人研修で、理念の意義を説明しています。事業所内に掲示することで、職員のみならず来訪者にも事業所の指針を示しています。カンファレンスや申し送り時に、理念について触れる機会があり、職員はケアに反映できるよう努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治体の敬老会やクリスマス会の参加や、幼稚園との交流もあり、又、防災訓練時には近隣へのお知らせと協力をあおぐ伝達をしている。	自治会の廃品回収に協力し、敬老会等の行事にも参加、神社祭は利用者で見物しています。来訪の幼稚園児の遊戯や肩たたきは、利用者が笑顔になる場面になっています。住民から介護の相談事を受け入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践の機会はないが、今後地域への発信、関係性を強化していく必要性を感じる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、自治会代表、市の職員、家族等に集まって頂き、運営状況やサービスの取り組み状況について発表し、意見を仰ぎながら情報交換をしている。	会議は、隣接の系列事業所と合同で関係者の出席の下、定期的に開催しています。利用者動向や事業所の活動報告後に、身体拘束等の有無と対応や、水害時対策等に意見交換が行われ、さらに、各メンバーから情報が得られています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	上記のとおり、市の職員には推進会議に出席してもらい情報交換や協力関係を築くように取り組んでいる。	施設長と管理者が行政の各担当者と関わりを持ち、意見や提案、助言等を得ています。行政主催の研修会参加、月1度の介護相談員の受け入れ、ケースワーカーとの情報交換、運営推進会議に出席の担当者からの情報等を運営に反映しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わず、離れていても動きの把握が出来るように寝具等に鈴を使用している。外出願望の強い(妄想があり現実とは違う理由から)入居者には、見守りを強化するとともに、短時間の表玄関の施錠をする事あり。職員の数に余裕のある時には、一緒に外出して対応している。	身体拘束等適正化委員会は、運営推進会議の中で開催しています。指針の整備を報告し、事例に対しての状況や実施判断について、メンバーから理解を得ています。職員は、研修会等で適切な対応を学び実践に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝のミーティング時等に、虐待にならないよう冊子を参考にカンファ行って、日々の自らの介護について回想する機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者がおり、今後も増加が見込まれるので活用の上で理解を深めていく必要性あり。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族と、時間をかけて契約時の説明を行っている。又、重要事項や理念の説明看取りに関する事もふまえ、ホームでの暮らしについて納得されたうえで入居されている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、使用されていない。家族とは、面会時や計画の説明時に思いを聞ける様に努め、時には運営に反映させている。	家族には、毎月担当職員による写真を掲載した便りと、3ヵ月毎の「和新聞」を発行し、利用者の様子を伝えています。職員は、家族来訪時に意見や要望の汲み取りに努め、出された意見には速やかに対応しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士や、管理者と意見交換をしやすい雰囲気作りを努めている。提案があれば、時には即介護計画に追加するなどし、反映させている。	運営者や施設長は、管理者からの報告で各ユニットの現状を把握しています。管理者は、職員から業務に関する意見や個別の相談事を受けとめ、業務の改善や希望休が叶えられるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護現場で働く職員は、安い給与で汚くきつい仕事をするものだとされている。当ユニットの職員は、少しでもやりがいや、若い人が将来性を感じ、家族を養えるような状況まで整備される可能性を信じて日々仕事している。各自向上心を持っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や実習に積極的に参加出来る様努め、職員を育てる取り組みを実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	ホームとしては、行っていないが、研修に行った職員が他施設の情報を聞き、交流を通じて、当ホームで実践できる事は柔軟に取り入れ、サービスの質の向上させていく取組をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から本人に関する情報収集に努め、入居前アセスや生活歴等を職員間で共有し生活課題を把握し、要望を聞き、安心できる関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセス等で個人の情報を周知しており、不安の少ない様対応している。家族には来設時生活状態を伝え、要望をケアに結びつけ必要な支援を提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階においては、家族や本人と話し合う時間を十分に作り、本人や家族からの「その時」に必要なケアが何かを聞き取りや思いを汲み取るようにしている。本人や家族のニーズを大切に、必要なケアを提供出来る様話し合いながら、環境の整備等の調節対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の出来る事、能力、体力を把握し暮らしを共にする者同士の関係を築いている。本人に出来る事はお願いし、寄り添える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月初めに、家族に向けて手書きのお手紙を同封し、本人の近況報告をしている。変わりがあった時には都度、お電話にて報告している。又、本人の状況によっては協力して頂ける様お願いする事もある。日頃から信頼関係が築ける様努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を踏まえ、その延長線上の生活が繋げられる事が大切であるが、中々馴染みの場所へお連れする事が難しいので、職員数が増えたら実行したい。その為に今行っているのは、馴染みの物を居室に置いてもらったり昔の写真を使用して回想を促し、本人の歴史を大切にしている。	家族や趣味の仲間、友人の来訪時は、リビングや居室で利用者と寛げるよう配慮しています。家族の支援で、買い物、美容室、食事等に出かけています。職員は、利用者の写真を一緒に見てその時代を共有するなど、生活歴を大事にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームの生活時間の中で、全員集まる時間(体操やレクリエーション時、三度の食事時など)を作り、顔を合わせ会話が出来る環境を整え、孤立しないよう努めている。又、一人でいたいという気持ちも大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族に出会った時には、挨拶し近況を訪ねる等し関係性を大切にしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話せる方には、居室でお話を伺うようにしている。うまく思いを伝える事が難しい方が多いので、行動、言動の様子を見ながら本人の困っている事を把握。職員間でも情報を共有しながら安心出来る声かけを行っている。	利用者の思いや望みは言葉や表情から察知し、入浴拒否も意向として捉えています。家族や友人からの情報を参考に職員間で検討し、利用者の満足度が高められるよう努めています。	
----	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を資料を通して把握し、家族側からも情報を頂きながら、サービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングの場や日々の記録から情報収集し、状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者は、日々の記録や職員間の情報から、モニタリングを行い、本人のニーズに合った介護計画を作成し、職員間での話し合いにてさらに意見を取り入れ、家族への説明を行い納得して頂ける介護計画である事に努めている。	介護計画更新時は、関わりから得た利用者の要望を基に作成された原案に対し、職員全員の検討を経て家族に意向確認を行い、同意を得ています。支援目標の実践は、毎日のアセスメントシートにチェックしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化等ある時は、日々の申送りや気づきのある時に、計画作成者に情報提供を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の身体状況等、変化に伴い本人に合った柔軟なケアを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署や町内の協力を得ながら、防災訓練を行ったり自治会開催のイベントへ参加したりと暮らしを楽しむ事ができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿ってかかりつけ医を決め、適切な医療が受けられるように支援している。受診には家族同行して頂く事もある。	利用者や家族が選択した医療機関には、家族と協力して同行しています。協力医療機関へは職員が受診支援をし、結果を家族に報告しています。看護職員の週1回の健康管理も行われています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタルチェックにて、いち早く異変に気付くように努め、異変時は看護職員に報告して指示を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には添書、既往歴、服用している薬を持参。情報提供をしている。面会時には状況把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に、家族とは終末期に向けた方針、支援について時間をかけて話し合っている。身体状況の変化に伴い、都度家族と話し合い、方針を共有するようにしている。ホームで出来る事を十分理解して頂けるよう努めている。	利用時に重度化や終末期の対応指針を説明し、同意書や事前指定書を得ています。現在まで看取りの経験は無く、訪問診療など態勢が整った時点で、終末期の受け入れを開始することとしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回消防署の協力のもと、心配蘇生、AEDの使用法を実技を交え講義して頂いている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年三回、消防署や消防設備会社の協力のもと、防災避難訓練を行い、評価、助言を頂いている。地域の住民にも告知し、協力を仰いでいる。	消防署や防災業者の指導の下、地域住民に協力要請を行い、年3回、日中・夜間想定避難訓練を計画し、地震後の火災想定など順次実行しています。不足分の備蓄品を随時用意しています。年1回消防署員から、利用者も参加の救命法の講習を受けています。	職員手製の防災頭巾を被った避難訓練や、避難場所の確認等を行っていますが、洪水など自然災害や、あらゆるケア場面を想定してのマニュアルの整備と実践的訓練への取り組みに期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別に合わせた言葉掛けをし、慣れ親しんだ内容やニュアンスで対応する等工夫している。	居室にトイレを設置しており、プライベート空間に配慮があります。言葉かけや入浴時など、ケア場面に於いても尊厳ある対応を心掛けています。不適切な言動が見られた場合は、管理者はもとより、職員間でも注意喚起を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の状態に合わせて、どうしたいのか聞き、本人の思いや希望に沿えるよう捉えるよう対応している。思いを伝えられない入居者は、身体状況や日々の観察から表情や思いを汲み取るよう努め、職員が代わりに行えるようにする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ホームの一日の流れはあるものの、一人一人のペースで過ごされている。全員の希望に沿う事は難しいが、添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人らしいおしゃれが出来るよう努め、季節に合った服装が出来るように支援している。入浴時や、外出時には選ぶ事の出来る入居者には、着るものを選んで頂いている。服等の破損時には家族とも話し合い、修復や破棄をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の力に合わせて、食事量や食事の形態(お粥食、刻み、ミキサー食等)を考慮して提供している。季節感や、お誕生日、祝日に合わせたメニューもある。出来る力に合わせて、下膳や後片付け、テーブル拭き等のお手伝いを職員と共に行っていただいている。	系列事業所と共有の献立の下、調理職員を中心に利用者の持てる力を得ながら、食事作りを行っています。誕生日は要望を取り入れ外食でお祝いをしたり、お花見会はバラちらし寿司、おやつは甘栗善哉など利用者の好物を用意することもあり、変化に富んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の身体状況を把握して、食事量や水分量を記録に残し、足りないところを補えるよう工夫しながら支援している。調理担当者と協力し、口から食べる事が長く続けられるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行える方もあれば、就寝前に行う事が習慣になっている方もいて、その人それぞれに合った口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握して、誘導や見守り、時間によりパットの交換等にて支援している。自らトイレに行けて排泄が続けられるよう、過剰な支援とならないように努めている。	居室にトイレがあることで、自立排泄や失敗の軽減に繋がっています。利用者の状況に合わせた排泄支援を行っています。衛生用品使用時は、利用者の要望を取り入れ、家族の意向は、カンファレンスで検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便記録により、便秘時や、自覚症状の訴え時には主治医から処方された便秘薬を服用出来るよう支援しているが、日頃から運動量、水分量や乳酸飲料を摂れるよう支援し、予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	一人一人の希望の曜日に浴う事は難しいが、入浴日には希望の時間を聞き取り、入浴準備を一緒に出来る方とは一緒に行い、支援している。	週2~3回の入浴支援を行っています。同性介助や時間、回数は利用者の要望を受けとめ、入浴中は、利用者の歌や話を傾聴するなど、快く入浴できるよう配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室でゆっくり安眠されている。一人一人の生活習慣に合わせて安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬はホームで預かり、管理している。職員によるダブルチェックにより、服薬の間違いが無いよう努めている。内服に変更があった場合は職員間で情報を共有し状態を観察している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活状況や、思いに沿い、歌番組や時代劇を見たり、花札を楽しんでいる、家事の手伝いも行い一人一人の力を活かし、気分転換出来る様支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望通りに外出をされているが、家族協力のもと出掛けられる事もある。外出を希望される方の中には居場所がわからない、目的じたいを忘れてしまう事あり、	周辺の散歩や受診、花見、神社祭など地域の行事、ハーフマラソン見物、カラオケ等、利用者の要望と家族や職員の意向により、外出支援を家族と共に行っています。外出が困難な時は、受診帰りに食事をしたり、事業所での室内散歩、レクの充実等で補っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、本人承諾のもと、お小遣いはホーム預かりとしているが、家族本人の希望にて本人小銭を所有し、時折職員と外の自動販売機にジュースを買いに行かれる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話回線はあるが、使用している方はいない。電話希望時は職員に言いに来られ、ダイヤルを回してあげて本人が使用している。掛かってきた場合も取り次いで本人と話せるように支援している。お手紙のやり取りをされている方はいないが家族からはがき等届いたらお渡し、代読するなどしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや食卓の壁には季節ごとの絵や歌の歌詞や行事の写真を貼っており、見て楽しめるようにしている。温度計湿度計を壁に掛け、適切な温度設定に保てる様、居心地よく過ごせる様支援している。日々の生活状況に合わせて調光行っている。	和室もあるリビングは程良い広さがあり、温湿度、採光、清掃等に配慮があります。共用空間には、神社の御札や和新聞、行事の写真、季節の飾り物等が、穏やかな雰囲気を出しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファは、気の合う同士出来るだけ隣合えるよう支援し、会話が弾んでいる。部屋にいるのは寂しいが、他人と関わり合うのも面倒、という方もいてそれぞれ座る場所を工夫している。食卓も、相性を考えトラブルにならないように対応し、工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、家族にはなるべく家で暮らしていた様に家財を入れて頂いて結構ですと伝えている。実際はシンプルになっているが、本人がくつろげて安心出来るように支援している。	7.5畳ある居室には、クローゼット、流し台、ミニ冷蔵庫、トイレが設置されており、自立に向けた設えになっています。家族写真やぬいぐるみ、タンス、仏壇などを持ち込み、寛げる環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手摺りがあり、安全に活動できるように工夫されている。自室を迷ったり、方向がわからなくなるときは同行し、不安なく本人なりに自立した生活が送れるように工夫している。		